

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370104147 | | |
| 法人名 | 株式会社ピアーズ | | |
| 事業所名 | グループホーム シルバーピアーズⅡ | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区門前389番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 29 年 8 月 1 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&igiyosoCd=3370104147-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成 29 年 8 月 24 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした生活ペースの中で、個人の持っている能力を活かし認め合い仲良く笑顔で生活していけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は個々に野菜を切ったり、自分で進んでテーブルを拭いたり、洗濯物たたみなどをしたり、絵が得意な人は活けた花を見ながら描写したり、数字合わせをしたりするなど、役割や趣味を持って1日を過ごしており、生き生きとやりがいを持って生活している。
壁には、絵を得意とする利用者が描いた作品や習字、職員と一緒に作成した季節の作品が数多く飾られており、介護目標や理念は習字が得意な利用者を書いてもらい掲示することで、職員に周知しやすくしている。敷地内にある同法人のグループホームとは廊下で繋がっており、日常的に交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内に理念を掲示し常に意識しながら統一したケアを実践している。新入社員にも研修を行い指導している。 | 事務所や共有フロアー・相談室に理念を掲示している。また、年1回の研修や委員会で話し合ったり、月毎の介護目標を毎朝復唱したりすることで職員に周知している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新聞を発行し回覧板などでホームの様子を紹介している。保育園、学校、地域行事にも参加している。交番にも毎月カレンダーを持って訪問している。夏祭りではパンの販売や介護相談コーナーを設けている。 | 2ヶ月に1回、ほのぼの新聞を発行し、町内会の回覧板を活用して事業所の活動を紹介している。また、地域の祭りに参加したり、高松農業高校に苗を買いに出かけたりしながら、地域の人と交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族地域交流会や運営推進会議の中で認知症の勉強会や支援方法の相談を受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を開き、利用者、家族、地域住民、行政の方を迎え、サービスの取り組みや活動報告を行いご意見・要望を伺いサービスの向上に努めている。 | 家族や連合町内会、婦人会、包括支援センターの人々が参加している。地域のイベント情報や事業所の現状などを話し合い、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に事業者指導課の方、地域包括支援センターの方に参加していただき、サービスの取り組みを伝え情報交換を行い、ご意見をいただき連携を図っている。 | 毎回、事業者指導課に運営推進会議の出席を促すことで、参加に結びつけている。 | より細かい報告・連絡・相談を行うことで、さらなる連携に期待します。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎月委員会を開き現状報告、見直し、意見交換を行い、拘束をしない支援に向け努力している。スピーチロックの勉強会を行い言葉かけにも十分気をつけている。 | 身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は安全面の問題から夜間のみ行っている。スピーチロックに関しても、勉強会を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月委員会を開き虐待防止に取り組んでいる。自己評価後の面談を行い話をすることでストレスや悩みがないか把握するように努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修委員会主催の元、毎月のユニット会議で勉強会を行っている。また、いつでも見ることが出来るようにファイルを作成して活用出来るようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に時間をとり、不安や疑問な点にお答えし、利用料金、重度化や看取り、医療連携の実施など詳しく説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族地域交流会やご家族の面会時、日々の会話の中でも思いや要望など言ってもらえるような関係作りを意識し運営に反映できるようにしている。 | 年3回行う地域交流会や忘年会、日々の面会時に家族の思いや要望を聞いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のユニット会議において活発な意見交換を行い、より良い支援が出来るよう努めている。また、個人面談を行い、意見・提案は検討し運営に取り入れている。 | 施設内で管理者と職員が個別面談を行い、勤務時間の配慮や希望休暇の取得など、ワークライフバランスを実現している。常に管理者は職員が話しやすい環境作りに努めている。職員の提案により、お風呂介助専門職員を配置している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人面談を行い、思いや悩みなど十分に聞き取りストレスをためない環境作りに努めている。また、日頃より何でも言い合える関係を築いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に積極的に参加し、勉強会を行っている。新人職員には、1か月間マンツーマン体制をとり、ケア技術だけではなく利用者との関わり方についても指導している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修や他グループホームとの交流、情報交換を行い、サービスの向上に役立つことがあれば積極的に取り入れている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で生活状況の把握と本人の心身の状態思いに向き合い、安心して新しい生活に慣れていただくよう職員との信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでのご家族の苦労や思いを受け止め、何を求めているかを考え理解して対応することで、良好な信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族のお話を聞き、思いを受け止め状況確認しながら最善のサービスが提供出来るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、人生の大先輩であるという考えのもとに、共に支え合える関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時にはご本人の日頃の様子を伝え、状態に変化があれば早急に連絡し相談しながら対応している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域行事・他施設の催し物に参加し馴染みの人と会える機会を設けている。年賀状を書いてもらいやりとりをしていただいている。 | 通っていたデイサービスの施設長や小学校の同級生、元職場の同僚、近所の友達が訪問している。地域の祭りや行事に参加したり、写真を家族に送る際、利用者から一言もらって添えたりしながら関係を継続している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の心身の状態・気分・感情で日々変化することもあるが、皆でお茶を飲んだり手作業や歌を歌ったりして頂き、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設へ移られる場合、今までの生活が継続出来るように情報提供を行っている。ご家族にその後の様子を手紙や電話でお尋ねしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活の中で会話や表情、態度から本人の思いを把握出来るように努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得たり、みんなで話し合っている。 | 普段からプライドを傷つけない言葉かけやしっかり立ち止まって傾聴することで、利用者の思いや意向を把握している。一人ひとり話しやすい環境を職員が把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の生活の中でコミュニケーションを取りながら聞き出していけるように努めている。ご家族からも昔の様子をお聞きしながら、これまでの人生の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活のリズム・生活習慣・精神面・体調の変化等の把握を行い介護日誌に記録し職員間で情報共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族に思いやご意見、要望をお聞きしユニット会議や担当者会議で話し合い意向に添った介護計画の作成に努めている。 | モニタリングや利用者・家族への聞き取り、担当者会議を経て、最終的に管理者が確認し、交付している。日頃の面会や電話をこまめにする事で、円滑なプラン作りが実現している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子、状態の変化は個々のケア記録に記入し、職員間の情報共有を行い介護計画の見直し、評価を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の状態や家族の意向に配慮しながら、必要に応じて可能な限り出来る事は取り入れるようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 誕生日会や行事では、地域のボランティアの方が来て下さり、月に一回の訪問利用サービス、お化粧ボランティア、交番との交流がありいざという時に頼れる関係作りに努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にご希望の病院をお尋ねしている。事業所の協力医では24時間体制で対応が可能であり適切な医療が受けられる。週1回の訪問歯科で口腔ケアにも力を入れている。 | 利用者はかかりつけ医を継続することができ、定期的に往診に来ている。協力医には月2回、受診に行っている。また、週一回、歯科の訪問もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の健康状態に変化や気付いた事があればすぐに看護師に報告し、医師に連絡、状態報告し早急に適切な医療が受けられるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には添書にて日々の様子、体調の変化を報告し、早い時期にお見舞いに伺い入院中の様子を把握し、ご家族とも連携を取り速やかに退院出来るようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化に伴う意思確認、同意書を本人・家族の意向を基に作成している。看取りケアについても家族・医師・看護師・介護職が話し合い安心して納得したケアが受けられるように随時確認を取りながら取り組んでいる。 | 年1回内部で看取りの勉強会を行っている。また、外部の研修に参加し、配布されたパンフレット等を家族に閲覧してもらうことで、終末期の情報提供・共有に活かされている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変、事故発生時には協力医に早急に連絡し指示を仰いでいる。緊急時のマニュアルを作成し救命法や年1回AED指導の実技勉強会も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練には町内会、消防署の方にも参加して頂き避難訓練を行っている。夜間、地震、水害を想定した訓練も行っており、備蓄品の対策も検討している。 | 避難訓練には地域の方も参加しており、火災訓練では利用者の見守り役を担っている。災害時の備蓄については近くにある食品会社へ備蓄品を確保している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人らしい姿を大切にしながら、一人ひとりに合わせたケアを心がけている。接遇委員会を設置し声掛け・接遇マナーについての勉強会を実施し、職員全体で取り組んでいる。 | 人生の大先輩であるので、特に男性の利用者にはプライバシーを傷つけない様、丁寧な言葉かけに配慮している。2・3ヶ月に1回、勉強会を実施している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。毎日の衣類も可能な方には選んで頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切にして、その日の体調や様子を見ながら、本人の要望を尋ねたり相談して、出来るだけ希望に添って支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問散髪やメイクボランティアの方によるメイク・マニキュアもしてもらっており、清潔を保ちおしゃれも楽しんで頂ける様に計画している。服装もその人らしいスタイルが保てるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べたいメニューをお尋ねし希望食としてメニューに取り入れている。野菜を切ったり出来るお手伝いをして頂いている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。 | 野菜を切ってもらったり、テーブル拭きやお茶入れ、お盆拭きなど、出来る事を手伝ってもらっている。男性の利用者にも時折、簡単な手伝いをお願いしている。食事の時はテレビを消してBGMを流し、職員も一緒にテーブルを囲み楽しく食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。その方の状態に合わせ、おかゆ、キザミ食、トロミを付け食べやすく提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は声掛けにて口腔ケアをして頂き清潔が保てるようにしている。また、訪問歯科の衛生士による口腔ケア指導も行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を使用し、排泄間隔の把握をし、トイレ誘導の声掛けを行いトイレでの排泄が出来るように支援している。 | 排泄チェック表を使用することで、入居時は紙パンツだったが、布パンツに改善した例がある。足が悪い方には夜間、ポータブルトイレを設置して、安全に配慮している。トイレに行けない人には様子をみながら、夜間もトイレ誘導を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便記録を見ながら、十分な水分摂取を心がけている。便秘気味の方には、朝食の前に冷たい飲み物を飲んで頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの生活リズム・気分・体調に合わせて無理をせず本人のペースに合わせて声掛けを行い、ゆったりと一人ずつ入浴して頂いている。浴槽に入れない方にはミスト浴を楽しんで頂いている。 | 週3~4回、入浴支援している。お風呂専任の職員が毎回風呂の水を入れ替えて清潔を保っている。入浴剤を使用する事で、利用者に喜ばれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し生活リズムをつけるようにしている。体調に合わせて個別に休憩して頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の処方ファイルにより、職員全体が個々の薬の効能、副作用を理解している。服薬時には手渡しし、飲み込み確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や会話からその人に合ったお手伝いをお願いし、負担にならないように配慮している。梅ジュース、らっきょう漬、干し柿など教えてもらいながら作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 全員での外出は困難であるが少人数や個々に買い物、外食、散歩などご家族にも協力して頂きながら個別支援に努めている。 | 家族と一緒に買い物や食事に出かけたり、事業所周辺を散歩したり、近隣のホームセンターにアイスを買に出かけたりしている。また、洗濯物を干したり取り込んだりしている利用者もいる。気軽に外出できる機会を作り、一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出時には財布を所持し、欲しい物を選び自分で支払いが出来るように支援している。また、近くの自動販売機でジュースを買って頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望に応じて日常的に家族、姉妹、友人に電話や手紙を出せるようにしている。年賀状は全員が出している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには利用者の手作り作品、習字、絵、行事の写真などを飾っている。また、季節の生け花も活けて頂いており明るい環境作りに努めている。 | ホールは天井が高く、窓から光が差し込み明るい空間となっている。壁には利用者と一緒に作成した作品が飾ってあり、季節感を出している。一緒に床のモップ掛けやベットの掃除等、出来ることを手伝ってもらい、清潔を保っている。 | 洗面所の備品等の整理に期待します。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールのソファーを利用してもらったり、テーブルやいすの配置に考慮して、落ち着いて気の合う人達が楽しめるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や思い出の写真・手芸作品を持ち込んでいただき、居心地の良い暖かい雰囲気作りに努めている。 | 西日が当たる居室の窓にはすだれが掛けられ、すだれには利用者が織った朝顔や昔作成した手芸作品が数多く飾ってある。また、色々な猫グッズや馴染みの人形が置いてあるなど、個々に合わせた居室作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご本人の状況に合わせて安全に生活出来るように職員同士話し合いながら工夫したり、物の配置に注意している。 | | |